

教育支援 (幸せの子どもの家)



プロジェクトの背景

ポルポト時代に家族を失った経験を持つソカ氏の孤児院設立の構想に対して、2002年に当会が施設を建設し、創設に携わった。贈呈式は2002年11月30日。主にゴミ山で生活している孤児等を調査面接し、就学意欲のある16名の支援から開始した。CCHはCenter for Children's Happinessの略称。日本語では「幸せの子どもの家」と呼ぶ。カンボジアのNGOとして正式に登録されている団体で、設立当初からソカ氏が所長を務める。これまでに在籍した子どもの数は247名。2016年3月末現在、83名の子どもが生活している。また、CCH内で運営されている小学校にはCCH内の子ども41名の他に外部の子ども95名を受け入れている。

インタビュー

『日本の支援者の皆様へ』

CCH所長 (理事) メチ・ソカ



教育が人間らしい生活をもたらす

生まれた時から、人間は日常生活の中で必要な教育を受け、教育こそが、より良い人生を送るための重要な要素となります。いずれにしても、どのようにすれば適切な教育が受けられるかは、それぞれの人自身の生き方によります。

CCHは子供たちにシェルターを提供しようと努力を続けています。そこでは、恵まれない子供たちが自分を成長させ、将来、社会に対する責任を果たし、適切な判断を下すことができる大人になれるよう、様々な知識や技能や生きていく正しい姿勢や健康管理を学ぶ機会を提供しています。

各種技能

優れた技能があれば、18歳になった時、彼ら貧しい若者が就職し、自立した生活を営むための賃金を得て、高校生活を続けることも、もし彼らが希望するならば、より高い教育を受けるために大学に進学することも可能になります。CCHは子供たちが4年生以上になると、技能の知識、例えばコンピュータや調理、裁縫、英語などを教え始めます。子供たちが7年生つまり中学生レベルになると、18歳以上になった時に働くために必要な技能を学ぶようになります。貧しい子供たちが若い大人になった時に、容易に仕事を見つけられるようになることが成功した未来なのです。事実、2002年から現在までに98人のCCHの卒業生が職を得て、家族を作り、自立した社会人として生活しています。

シアヌークビル市のドン・ボスコ職業訓練センター

ドン・ボスコとは自分の生涯と財産を世界中の若者たちの将来のために捧げた一人のイタリア人男性の名前です。彼は、若者たちが安定的な生活を送るために必要な、より高度な技能を身につけられるように支援しました。CCHはプレアシアヌークビル州のドン・ボスコと連携しています。2009年から2015年までの間に、CCHは45人の生徒をドン・ボスコに送り込んでいます。そのうち男子は13人、女子は32人です。今年度は11人の生徒(うち男子は6人、女子は5人)がプレアシアヌークビル州のCCHからドン・ボスコに通っています。また、そこには2人のCCH職員がいて、ドン・ボスコとの共同プロジェクトの状況をモニターしています。

より高度な教育

40人の生徒が高校レベルの課程を終え、また一部は準学士号や学士号を取得するために昼は働き、夜は勉強しています。

そして、すでに一部の者はカンボジアの大学レベルの課程を修了し、卒業しています。また、7人の学生が外国の大学で学び、そのうち1人が卒業しCCHの活動を支援するためにカンボジアに戻ってきています。2016年度には1人の学生がアメリカの大学に入ることになっています。

この機会を借りて、JHPの小山内美江子代表に心からの御礼を申し上げるとともに、JHPの職員およびすべてのJHPの支援者の方々に感謝いたします。2016年が皆様にとって幸せと繁栄をもたらす年になるように心からお祈り申し上げます。



CCHで生活する子ども達



ロードショー活動で読み聞かせをするCCHメンバー



美容師の研修を受けるCCHメンバー

項目	総数	男子	女子
小学生	53	22	31
中学生・高校生	30	17	13
小計	83	39	44
(CCH現在数)			
CCHサポートの プノンペン市内大学生	3	0	3
自立している 高校生、大学生	52	23	29
社会人	99	64	35
(CCH卒業生)			
カンボジアの大学・ 海外のインターナショナルスクール在籍者	10	3	7
支援総数	247	129	118